

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

XII 公害反対闘争

3 水質汚染公害反対闘争

合成洗剤追放第一〇回全国集会

総評・全水道・自治労・日教組などの労働組合、各地の合成洗剤追放をめざす住民運動グループ、消費者団体などで構成されている「きれいな水と命を守る合成洗剤追放全国連絡会」の主催により、一九八三年一〇月一九、二〇の両日、「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放第一〇回全国集会」が北海道札幌市で二〇〇〇人の参加のもとに開催された。

集会は、「未来につなごう雄大な自然」をメインスローガンに、「緑と水を乱開発から守ろう、無りん合成洗剤も追放しよう」をサブスローガンにして、第一日目の全体集会では横路北海道知事の来賓あいさつ、基調報告、「石けんと仲よく暮らそう」と題する記念講演（講演者は城雄二広島大助教授）などがおこなわれ、第二日目の分科会では、六つの分科会（「上手な洗たくのしかた」「合成洗剤の毒性について」「給食現場からの追放と教育実践」「環境問題と合成洗剤」「水質汚染と合成洗剤」「追放運動をどうすすめるか」）で討議がおこなわれ、さらに分科会終了後の総括集会では、厚生大臣、環境庁長官などへの要請書、集会アピールが採択された。

全水道の合成洗剤追放運動

「きれいな水と命を守る合成洗剤追放全国連絡会」の事務団体として、合成洗剤追放運動の中心的役割をになってきた全水道は、右全国連絡会の一〇年の運動の成果と今後の方向について、つぎのようにまとめている（『全水道』三四号）。

- (1) 全水道の水質汚染公害反対闘争である「ブルーウォーター作戦」と草の根住民運動が合流してできたのが「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放運動」であり、人々の生存に欠くことのできない水と自然、そして人の生命を守る、という原点を大切にする。
- (2) この運動は、全国連の活動が存続して発展できた、人々の「善意と協調」に依拠して、相互理解を追求しながら、目的を一つにして運動を続ける。
- (3) 森と土と水という、人々の生存にとってこのうえなく大切な自然環境を大切にして共存していくという思想をお互いのものにしていく。

(4) 今日の世界をとりまく地球的規模での水の源たる森林資源の荒廃、海洋汚染、大気汚染、土壌汚染、食品公害等と、人類を死滅させていくものとしての核戦争の危機的状況について、人間と自然の共存にとって完全に同質のものとして受けとめ、公害・環境運動と平和・民主主義を守る運動を結びつけ、ともに運動を発展させる。

■←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
